

クロフネ

69,134票



2001年 ジャパンカップダート(現チャンピオンズカップ) (GI)

日本競馬に現れた“黒船”

JRAのダートGI史上最大着差の7馬身差圧勝。勝ちタイムの2分05秒9(東京競馬場・ダート2100^m)は20年以上が経った今も残るJRA記録(2024年11月17日現在。以下同じ)。2001年、伝説的な走りでチャンピオンズカップの前身であるジャパンカップダートを制したクロフネは、当初は芝を走り、日本ダービーを目指していた。

2歳暮れのレストラン杯3歳Sはアグネスタキオン、ジャングルポケットと鎬を削り3着。3歳初戦の毎日杯を5馬身差で制し、NHKマイルカップを豪脚で差し切ったクロフネが向かったのは、長く制限されてきた外国産馬の出走がこの年、ついに認められた日本ダービーだった。記念すべき最初の出走馬の1頭として臨んだアメリカ産馬のクロフネは5着に終わったが、その挑戦は大きなインパクトを残した。

秋は神戸新聞杯3着から、やはりこの前年に外国産馬に開放されたばかりの天皇賞(秋)を目指していたが、取得賞金が足りず無念の除外。方針を切り替えて出走した天皇賞(秋)前日に行われるダート

のGIII・武蔵野Sで、クロフネは驚異的な走りを見せた。2着に9馬身差、芝並みの勝ちタイム1分33秒3は、もちろん今もJRA記録だ。

そして迎えたジャパンカップダート。アメリカのG1馬リドパレス、前年の覇者ウイングアロー、重賞2連勝中のミラクルオペラ、フェブラリーSの勝ち馬ノボトゥルーらを相手に、クロフネは圧巻のパフォーマンスを披露した。序盤は後方、3コーナーで一気に仕掛け、直線入口で早くも先頭に立つと、あとはひたすら引き離す一方。わずか2戦で砂の頂点に立ち、日本のダート競馬の歴史を塗り替えたクロフネは、2001年のJRA賞最優秀ダートホースに選出された。

海外遠征の計画もあったが、屈腱炎を発症し、3歳12月で電撃引退となったクロフネ。種牡馬としてもフサイチリシャル、カレンチャン、アップトゥデート、ホワイトフーガ、ソダシなど舞台を問わず、息長く活躍馬を輩出。今も日本競馬で存在感を発揮し続けている。

第2回 ジャパンカップダート(GI)

2001年11月24日 東京競馬場 2100^m(ダート・左) 晴・良 16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	クロフネ	牡3	55	武 豊	松田 国英	R2:05.9	①	12 10 3 1
2	ウイングアロー	牡6	57	横山 典弘	南井 克巳	7	③	13 12 11 8
3	ミラクルオペラ	牡4	57	幸 英明	領家 政蔵	1/2	④	10 8 9 8
4	ノボトゥルー	牡5	57	○,ペリエ	森 秀行	3/4	⑤	3 3 4 3
5	プリエミネンス	牝4	55	蛸名 正義	伊藤 圭三	1	⑩	5 5 7 6

クロフネ Kurofune

1998年3月31日生 牡 芦毛

父:French Deputy 母:Blue Avenue 母の父:Classic Go Go
生産:Nicholas M. Lotz(アメリカ) 馬主:金子真人氏
通算成績:10戦6勝

主な勝ち鞍

2001年 ジャパンカップダート(GI)、
NHKマイルカップ(GI)、
武蔵野S(GIII)、毎日杯(GIII)



2001年NHKマイルカップ(GI)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
1位:クロフネ(69,134票)

2^位 **ホッコータルマエ** 24,291票



2014年の優勝馬で、2番手追走から力強く坂を上りきり、2着馬を半馬身差退けての勝利であった。これがJRAでは初めてのGI制覇。同馬は通算でGI/JpnIを10勝。

3^位 **カネヒキリ** 19,388票



屈腱炎による2年以上の闘病から復帰した2008年に阪神競馬場で行われた本競走(当時はジャパンカップダート。以下同じ)に勝利。05年の東京競馬場での本競走も制している。通算でGI/JpnIを7勝。

4^位 **チュウウウィザード** 14,586票



2020年の優勝馬。2着馬に2馬身半差をつけてJRA・GI初制覇を果たした。通算で26回出走し4着以下となったのはわずかに3回という安定した実力の持ち主で、GI/JpnIIは4勝。

5^位 **クリソベリル** 11,503票



デビューから破竹の6連勝で2019年の本競走を制したのがクリソベリル。ゴール前の攻防をクビ差先んじたものであった。GI/JpnIIは通算4勝。



特設サイト